

## 第1回 婦人科ロボット手術 若手ワークショップ 実施報告

周産・女性診療科 講師（キャリアアップ）  
大島乃里子

オーダーメイド支援（2023年度）を活用し、第1回婦人科ロボット手術 若手ワークショップを実施しました。

### 【開催日時・場所】

開催日時：2023年11月18日（土） 14：00～18：00

会場：インテュイティブサージカル合同会社 辰巳トレーニングセンター

### 【開催者】

主催：東京医科歯科大学産婦人科ロボット手術ワーキンググループ（TMDU-Robo）

共催：インテュイティブサージカル合同会社

### 【指導者】 da Vinci 術者資格保持者 6名（学外講師 3名、学内講師 3名）

学外講師：高橋健太先生（旭中央病院 産婦人科）、吉野育典先生（都立駒込病院 婦人科）、伏木淳先生（がん研究会有明病院 婦人科）

学内講師：高尾茉希先生（周産・女性診療科 助教）、郡悠介先生（周産・女性診療科 助教）、大島乃里子（周産・女性診療科 講師）

### 【参加者】

当大学関連施設若手医師（公募）

A グループ（産婦人科専門医取得前）8名、B グループ（専門医取得後）8名  
見学 2名

アドバイザー：吉木尚之先生（周産・女性診療科 准教授）

### 【内容】

(1) 導入説明：本ワークショップの目的と概要、サージカルシステムの説明、学習資料の配布

(2) 実機実習

使用機器：ダビンチシステムシステム Xi、X、シミュレータ 2台

①ダビンチサージカルシステムのセッティング、ポートプレイメントのセッティング、インストゥルメント挿入、抜去、交換の実施

②腔断端縫合モデルを用いた縫合実習

③鶏肉を使用した剥離操作実習

(3) シミュレータ実習

縫合、運針、3アームリレー、エネルギーデバイス等基本動作のシミュレーション

(4) 動画上映と解説

各講師が作成した手術動画の上演とその解説（スタートアップ動画、縫合、剥離、手術のコツ）

(5) まとめ、アンケート調査の実施



A グループ

B グループ

終了後記念写真の撮影を行い、ワークショップ終了としました。

本ワークショップについて

**【実施背景と根拠】**

2018年4月から婦人科疾患に対してロボット支援下手術が保険診療となり、多くの施設においてロボット支援下手術が開始され、手術件数が増加している。

ロボット支援下婦人科手術実施については施設要件および術者要件を示した指針と各サージカルシステムにおけるサーティフィケートが必要である。学会主導でロボット支援下婦人科手術の技術認定制度は創設されたが、具体的なトレーニングプログラムについては設定されておらずロボット支援下婦人科手術を志す若手医師の教育及びその技術向上は個人レベルもしくはそれぞれの施設レベルでの努力に委ねられているのが現状であり、安全で質の高いロボット支援下手術を普及させるための取り組みが課題となっている。

2019年に当大学大学周産・女性診療科腫瘍班において産婦人科後期研修医1年目（卒後3年目）、卒後2年目の初期研修医で産婦人科志望医師、計8名を対象に、ロボット支援下婦人科手術に対する意識調査を目的としてアンケート調査を行った。ロボット支援下婦人科手術に対して「興味がある」「どちらかというに興味がある」と答えたのは6名(75.0%)で、「卒後3年目からロボット支援下婦人科手術に関係する勉強会・研修会が開催されるとし

たら、参加したいか？」の問いに対しては「是非参加したい」1名(12.5%)、「予定が合えば参加したい」7名(87.5%)の回答が得られた。若手医師の中にもロボット支援下婦人科手術に興味を持ち、勉強会・研修会への参加に対しても前向きであることが明らかになった。

上述の背景を踏まえ、ロボット支援下婦人科手術を普及させ、その将来を担う若手を育成するためのプログラムを立案し、若手医師を対象として勉強会・研修会を行うことは社会的なニーズがあるだけでなく、若手医師にとってのニーズも満たし、重要な意義を持つと考えられる。同時に、現在、指導医のもと執刀を始めた医師、指導医としての立場に移りつつある中堅医師が、若手へ指導する機会を得ることにより、中堅医師のリーダーシップが育成され、指導医としてステップアップする機会を提供することも重要である。

以上より、中堅医師を中心としたワーキンググループを結成し、若手向けワークショップを開催することとした。

#### 【対象】

ロボット手術の術者を目指したいと希望する当科関連施設の産婦人科医師。産婦人科1~10年目程度。

#### 【指導者】

東京医科歯科大学産婦人科ロボット手術ワーキンググループ（TMDU-Robo）委員

WS 実行委員長：高橋健太

WS 実行委員：高尾茉希、吉野育典、伏木淳、郡悠介、大島乃里子

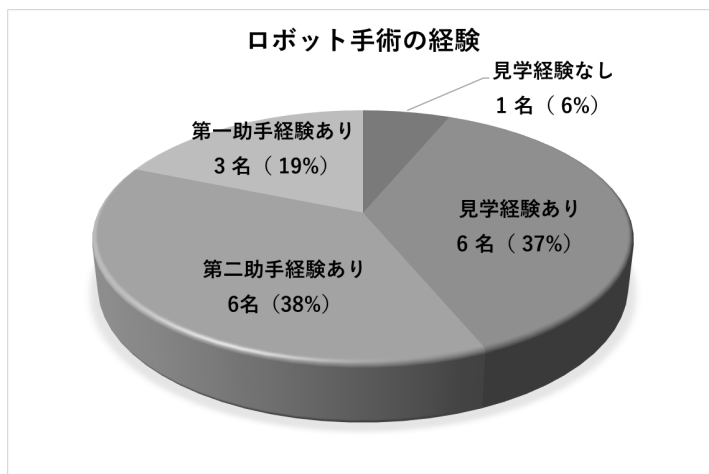
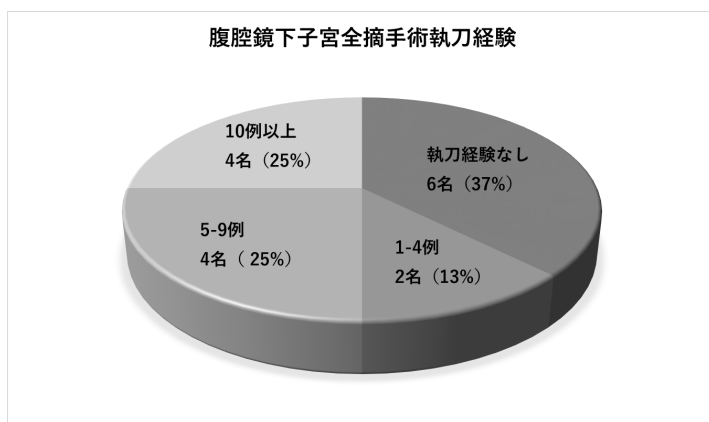
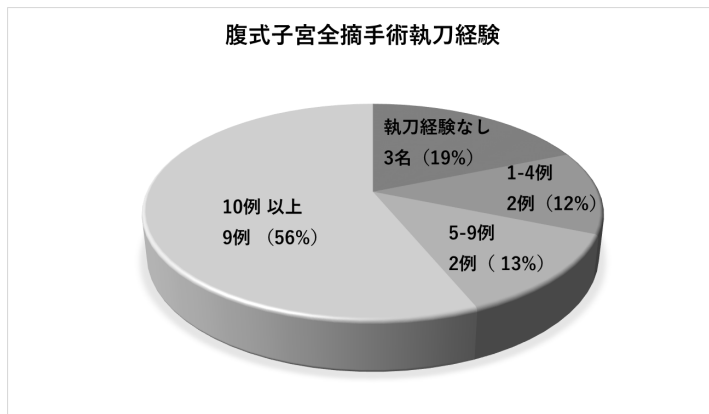
TMDU-Robo 代表幹事：大島乃里子

#### 【アンケート調査結果】

参加者：16名

産婦人科歴中央値：4年目（1-11年目）

## 参加実施者背景



シミュレータ実技難易度：適切 16名 (100%)

実機手技難易度：適切 16名 (100%)

全体満足度：満足 16名 (100%)

また参加したいか：はい 15名 (94%)、わからない 1名 (6%)

執刀できるようになりたいか：はい 14名 (88%)、わからない 12% (12%)

## 【まとめ】

腹式、腹腔鏡ともに未だ手術経験が少ない医師が半数近くを占めているにもかかわらず、シミュレータ・実機実技ともにスムーズに手技を行っており、適切な難易度であった。半数近くの医師はロボット手術の経験がなく、今回のワークショップで初めて実機を操作する医師が多数を占めたが、全体満足度も高く、本ワークショップの目的である若手ニーズに対して、ある程度答えることができたと考えられる。今回指導を行った中堅医師は、綿密な計画、充実した資料作成、堅実なワークショップ運営と終了後のアンケート集計と評価を含め、指導医として素晴らしい役割を担い、大きな指導力を発揮していた。今後は今回の参加者から執刀医や指導者ができるよう、来年度も本ワークショップを開催したいと考えている。